

# 保険・年金 フォーカス

## 年金改革ウォッチ 2015年1月号

### ～ポイント解説：被用者年金一元化の検証

年金総合リサーチセンター 主任研究員 中嶋 邦夫

(03)3512-1859 [nakasima@nli-research.co.jp](mailto:nakasima@nli-research.co.jp)

[http://www.nli-research.co.jp/company/insurance/kunio\\_nakashima.html](http://www.nli-research.co.jp/company/insurance/kunio_nakashima.html)

#### 1 —— 先月までの動き

企業年金部会では企業年金のガバナンスや現行制度の改善が取り上げられ、7月以降続けられてきた議論が予定した論点を一巡しました。年金数理部会では、公的年金各制度の平成25年度財政状況について報告を聞いたほか、今後行う財政検証等の検証作業で各制度に求める資料等を確認しました。公的年金制度を議論する年金部会は開催されず、議論のとりまとめは新年に持ち越されました。

- 社会保障審議会 年金積立金の管理運用に係る法人のガバナンスの在り方検討作業班  
テーマ GPIFのガバナンス体制（毎回共通）  
12月 1日（第5回）URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000066298.html>（配布資料）  
12月17日（第6回）URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000067522.html>（配布資料）
- 社会保障審議会 年金数理部会  
12月11日（第61回）テーマ 平成25年度財政状況（国家公務員共済組合 他）  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000068298.html>（配布資料）  
12月19日（第62回）テーマ 平成25年度財政状況（厚生年金保険・国民年金）  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000069051.html>（配布資料）
- 社会保障審議会 企業年金部会  
12月15日（第13回）テーマ 確定拠出年金における運用、企業年金のガバナンス 他  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000068910.html>（配布資料）  
12月25日（第14回）テーマ 企業年金のガバナンス、現行制度の改善  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000069906.html>（配布資料）
- 12月15日 社会保障審議会企業年金部会厚生年金基金の特例解散等に関する専門委員会（第8回）  
テーマ 特例解散等の調査審議（非公開）  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000067871.html>（開催案内）
- 12月17日 公的年金の分かりやすい情報発信モデル事業検討会（第7回）  
テーマ 厚生労働省特設ホームページ、市町村向け情報発信モデル事業の実施 他  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000069149.html>（配布資料）

## 2 — ポイント解説：被用者年金一元化の検証

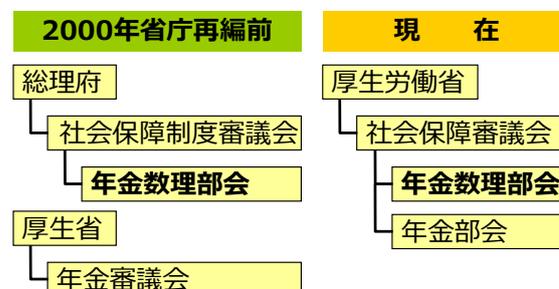
12月19日の年金数理部会では、今後行う財政見通しの検証作業の中で被用者年金の一元化も検証することが確認されました。本稿では年金数理部会の位置づけと一元化の検証の注目点を確認します。

### 1 | 年金数理部会とは：以前は総理府に設置されていた、年金財政のお目付役

年金数理部会は年金財政のお目付役とも言える組織で、2000年の省庁再編以前は総理府に設けられていた社会保障制度審議会の部会でした。現在は厚生労働省に設けられた社会保障審議会に属していますが、現在も第三者的な立場から年金財政を検証する役割を担っています。

具体的な役割(設置主旨)は、「被用者年金制度の安定性及び公平性の確保に関し、財政再計算時における検証及び毎年度の報告を求めること」と「被用者年金制度の一元化の具体的な措置が講じられる際の具体的な費用負担の在り方等について年金数理的な観点からの検討及び検証」となっています。

図表1 年金数理部会の位置づけ



### 2 | 一元化の検証の注目点：“持参金”の仕分けが、100年間の財政バランスにどう影響するか

今年10月に実施される被用者年金の一元化では、(1)公務員等も厚生年金に加入し、保険料率や給付内容を厚生年金に揃える、(2)公務員等が加入する共済年金独自の職域部分は、新しい退職年金制度に移行する、(3)共済年金の積立金を厚生年金移行分(いわゆる“持参金”)と新退職年金移行分とに仕分ける、などの改正が行われます。これらの改正が年金財政の見通しにどう影響するかは法案の審議過程では明らかにされなかったため、年金数理部会の検証で明らかになることが期待されます。

特に注目されるのは積立金の仕分けです。共済年金の積立金のうち、一元化時点の厚生年金の積立年度合(2014年度末の積立金が2015年度の支出の何年分か)に見合う額が厚生年金移行分に仕分けられます。これは足下の財政状況を重視した方法ですが、2004年改正後は約100年間の収支で財政バランスを評価する仕組みになっています。一時点の財政状況を基準にした仕分けが約100年間の財政バランスにどう影響するかは、別途検証する必要があります。

筆者が2009年に公表された見通しの基本ケースを使って試算したところ<sup>(1)</sup>、被用者年金一元化によって財政バランス(約100年後の積立度合)が少し悪化する結果となりました。2014年公表の財政見通しでは今後の公務員数などの前提が変わっていますし、経済や人口の前提によっても結果が変わってきます。幅のある結果になるため単純な評価は禁物ですが、どのような結果になるかが注目されます。

図表2 約100年間の財政バランス(2009年財政見通しベース)

一元化しなかった場合				兆円
	厚生年金	公務員	私学	全体
<b>財源</b>	<b>1664</b>	<b>281</b>	<b>26</b>	<b>1970</b>
保険料	1189	197	19	1404
国庫負担	327	37	4	367
積立金	144	47	3	195
<b>費用</b>	<b>1661</b>	<b>281</b>	<b>25</b>	<b>1966</b>
基礎年金分	640	73	7	721
厚生年金分	1017	178	15	1211
職域部分	-	28	2	31
<b>約100年後の積立度合</b>	<b>1.0</b>	<b>1.1</b>	<b>1.7</b>	<b>1.0</b>
一元化した場合(基礎年金・厚生年金部分※)				兆円
	厚生年金	公務員	私学	全体
<b>財源</b>	<b>1664</b>	<b>249</b>	<b>23</b>	<b>1936</b>
保険料	1189	185	18	1392
国庫負担	327	37	4	367
積立金	144	27	2	173
<b>費用</b>	<b>1661</b>	<b>254</b>	<b>23</b>	<b>1938</b>
基礎年金分	640	73	7	721
厚生年金分	1017	178	15	1211
職域部分	-	3	0	3
<b>約100年後の積立度合</b>	<b>1.0</b>	<b>-8.7</b>	<b>0.1</b>	<b>-0.3</b>

金額は現在価値(運用利回りで割引)。※一元化までの職域部分を含む。

(1) 拙稿「被用者年金一元化の財政検証を」『保険・年金フォーカス』2012年08月07日号。